

▶『幼児の教育』ネット公開に寄せて (14)

「日記」をキーワードとして

藤枝充子



お茶の水女子大学附属図書館のWEBサイト内の「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション (略称 TeaPot)」にてバックナンバーインターネット公開中。

URL : <http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>

▼はじめに―「日記」を選んだ理由

『幼児の教育』のネット公開と検索機能について知り、さらにこのようなネット公開に寄せた意見を述べる機会をいただいた時、初めに検索キーワードとして思いついた語は「日記」でした。

私は、家族や家庭の中で子どもに対して行われる教育的営みと、その中で子どもが育っていく姿を、歴史的に明らかにしたいと考え、日々研究している者です。これまでは、教育的営みの一つであり、教育力が低下したと指摘される「家庭教育」の成立期に着目し、一八九〇年前後から「家庭教育」のあり方を示すため徐々に出版されるようになった啓蒙的著作物である家庭教育書を分析対象として、当時の人々がどのような「家庭教育」をつくりあげようとしていたのかの解明に取り組んできました。家庭教育書としては、これまで、明治・大正期に書かれた久津見蔵村の『家庭教育子

供の志つけ』「前川文栄閣、一九〇二(明治35)年」、麻生正藏の『家庭教育の原理と実際』「北文館、一九一五(大正4)年」などを読んできました。

しかし、家庭教育書の分析からだけでは、子どもの日常生活や、その中で子どもが育っていく姿を明らかにすることはできませんでした。今後、さらに研究上の興味を深めていくためには、子どもの日常生活と子どもが育っていく姿を知るための史料を対象とすることが必要となります。そして、そのための史料の一つが育児日記だと考えています。

こうした研究上の興味やいきさつの中で、『幼児の教育』誌上には、いったいどのような日記が掲載されたのか、今回、ぜひ知りたいと思ひ、「日記」を検索キーワードに選びました。

▼検出された「日記」

「日記」で検出された記事は六十二件、その内、保護

者が書いた育児日記は三十七件でした。そのほかには保育者による保育記録、保育者の保育記録とそれに対する保護者の感想、育児日記を奨励する記事などが検出されました。先の三十七件は、五名の保護者により書かれており、その中の四名は複数回に分けて育児日記を掲載しています。

五名の保護者によって書かれた日記(①～⑤はそれぞれ、①著者、②掲載時期と回数、③子どもの生年月日と性別、④父母・きょうだいと子どもを取り巻く主な人々、⑤掲載されている育児日記の期間を表す)は、次の通りでした。

「或母の日記」

①無名氏

②一九〇一(明治34)年五月から一九〇二年四月までの間に計六回掲載。

③一九〇〇(明治33)年九月三〇日生まれの女兒。一

子のみ。

④父(小学校教員)、母(専業主婦)、祖父母、借宅の老婆一人、近所の家族、掛かりつけ医師など。

⑤誕生ころから一九〇二(明治35)年一月まで(誕生時から一歳三か月過ぎまで)。

「小さき日記」

①印東音鳴

②一九〇一年九月から一九〇二年六月までの間に計五回掲載。

③一九〇〇年七月生まれの男児と一八九八(明治31)年三月生まれの女児。弟と姉。

④父母、親戚(叔父叔母など)、爺やと婆や、下婢二名、守、掛かりつけ医師など。

⑤一九〇一年八月から一九〇二年二月まで(弟・一歳から一歳六か月まで、姉・三歳五か月から三歳十一か月まで)。

「富士ちゃんの日記」

①会員某女

②一九〇三(明治36)年二月から四月の計三回掲載。

③一九〇一年十一月生まれ。性別不明。一子のみ。

④父母、祖母、叔父、親戚など。

⑤一九〇二年七月から九月まで(九か月から十一月まで)。

「貞一の日記」

①その母

②一九〇四(明治37)年七月から一九〇六(明治39)年七月までの間に計二十二回掲載。

③一九〇三年五月三十一日生まれの男児。長男。一子のみ。

④父母(共に教員)、祖母、親戚(曾祖母、伯父、おば、いとこなど)、家庭教師(幼稚園教諭経験者)、婆や、複数の女中、掛かりつけの医師、父母の知人

たちなど。

⑤ 一九〇三年六月から一九〇六年五月まで(生後四六

日目から満三歳まで)。

「養育日記の中より」

① 速水信

② 一九一一(明治44)年十二月の一回掲載。

③ 生年月日不明の男児。但し、一九〇八(明治41)年

正月で四歳。妹あり。

④ 父母、祖父母など。

⑤ 一九〇八年一月から同年十一月まで(四歳)。

▼育兒日記の内容の紹介

育兒日記の掲載が一九〇〇年代(あるいは明治三十年代)に多いのは、当時盛んであった児童研究のためと考えられます。

ご存じのように、その時期の児童研究の目的は、欧

米から取り入れられた教育内容や方法を日本の子ども

に適するものにするため、日本の子どもの心身の発達

について明らかにすることでした。たとえば、高島平

三郎は、「小兒研究(二)」(『教育壇』第五号 一八九七

(明治30)年六月)で、子どもの心身の発達を知るための

一つの方法である「特殊觀察^{註1}」の項目として、「身体の

健否」、「身長、体重、胸囲、頭囲」、「声音及言語」、

「各覚官作用の發育状態」、「記憶及觀念連合の状態、

推理作用」、「情(好悪)及發表」などを挙げています。

育兒日記では、これらの項目について、子どもの日常

生活を描く中で触られています。

三十七件の育兒日記の記述の中で、筆者にとって印

象的なのが、子どもと子どもを取り巻く人々との交流

を記録した部分ですが、ここでは「婦人と子ども」

(『幼児の教育』の前身)誌上計二十二回連載された「貞

一の日記」(貞一の母による日記)から幾つか紹介し

たいと思います。

父の膝に乗り、押して頂戴といえは両手にて、父の胸を押し、父仰向に、転げて起して頂戴といえは、指をつかみて引張る。頭にて押し合いといつて父頭を出せば、自分も頭をつき出し左右に動かしながら押す。第五卷第一号（一九〇四年十一月二十一日）

この引用部分は、子どもと父親が遊んでいる様子です。このほかにも、父親が、離乳時期の子どもを寝かしつけたり、子どもを連れて遊びに行くなど、子どもと積極的にかわる場面がたびたび描かれています。

正月休み中、家に帰り居りし春さん今日来る。余程嬉しき者と見え、傍へよりては抱けとせがみ、又自分の持てる蜜柑の皮を、春さんに渡して、ご機嫌とり、ア、イ、ブなどいう。

第五卷第二号（一九〇五年一月八日）

これは、女中の春さんが、正月休み明けに帰ってきた時の様子です。家庭教師とは異なり、子どものしつけや教育に携わることのない春さんですが、子どもとの間に情緒的な関係が築かれていることがわかります。

名八さんと、外にて遊び、近所の子供の全し位のと、喧嘩して、取つ組み合いを始む。名八さんが、引き分けると、真赤な顔して自分の持ち居りし山吹の枝にて、相手の顔を打つ。

第六卷第六号（一九〇六年五月五日）

最後に紹介したこの日記は、近所の同年齢の子どもたちとのけんかについてです。名八さんは従兄で、日記には数回登場します。彼が、独りでは遊びに行けない貞一を外遊びに連れ出した時のことが書かれています。

ここでは、一つの育児日記からのみ引用しています

が、五つの育児日記には、子どもの成長を愛情深く見守る人々、家庭教師、複数の使用人などが登場し、またピアノという贅沢な楽器が出てくるなど、恵まれた家庭生活が描かれています。

▼おわりに

「日記」を検索キーワードとして検出された育児日記の記述から、子どもを取り巻く人々が子どもへ与えた影響や子どもが育つていく姿、さらに家庭の教育力として何を読み取るかは今後の課題です。その際には、検索によって取りこぼす育児日記があるかもしれないこと、また、本誌に掲載された育児日記から見えないこと、見えないことを常に意識する必要があると感じました。

最後になりましたが、膨大な作業を積み上げ、貴重な史料の閲覧を容易にしてくださいましたこと、さらに利

用者の要望に迅速に対応して下さっていることに感謝申し上げます。今後は、検索語の工夫をしながら、ネット公開されている「幼児の教育」をさらに活用させていただきますと思います。

(東京純心女子大学准教授)

注

・「特殊観察」とは、一定の子どもの発育日記であり、その子どもと生活を共にしている者が記述することが求められる記録であった。

参考文献

- ・高島平三郎「小児研究」「教育壇」第四号 一八九七(明治30)年五月 1～25頁
- ・高島平三郎「小児研究(二)」「教育壇」第五号、一八九七年六月、31～59頁
- ・高島平三郎「我國に於ける兒童研究の發達」「兒童研究」第一卷第二号、一八九八(明治31)年十二月、5～15頁
- ・青木一他編集代表「保育幼児教育体系 第五卷 10 保育の思想 日本」労働旬報社、一九八七年